

演題名：3割を超えるドロップアウト予備軍：外科専攻医への全国アンケート調査

[演者] 菊池 悠太:1, 山本 直宗:2

[共同演者] 須田 千秋:3, 谷河 篤:4, 阿部 朋未:5, 喜安 佳之:6, 小西 孝明:7, サシーム パウデル:8, 齊藤 光江:9

1. おおたかの森病院外科
2. 徳山中央病院外科
3. 佐久医療センター救命救急センター
4. 東北大学病院高度救命救急センター
5. がん研有明病院 乳腺センター乳腺外科
6. 京都大学消化管外科
7. 東京大学乳腺内分泌外科
8. 恵佑会札幌病院外科
9. 順天堂大学乳腺腫瘍学講座

【背景】 外科医不足が深刻化している。外科医不足を改善するためには、外科を志す医師を増やすと共に、ドロップアウトする医師を減らす必要がある。しかしながら、現在までに外科医専門医取得前のドロップアウトに関する先行研究はない。

【目的】 外科専攻医におけるドロップアウトの実態を調査する。

【方法】 令和3年度と令和4年度の外科専門医試験合格者全員を対象にオンラインアンケート調査を実施した。アンケートの内容は日本外科学会教育委員会 U40 ワーキンググループの委員で43問作成した。ドロップアウトに関して、(1) 真剣に考えたことがある、(2) 少しでも考えたことがある、(3) 全く考えたことがない、(4) わからない、と4群に分けた。(1) 真剣に考えたことがある、(2) 少しでも考えたことがある、の2群をドロップアウト予備軍と定義した。ドロップアウト予備軍を質問項目別に検討した。

【結果】 修練プログラムのドロップアウトを(1) 真剣に考えたことがある、と回答した人は74人(10.2%)、(2) 少しでも考えたことがある、と回答した人は165人(22.7%)、と合計239人(33.0%)いた。ドロップアウト予備軍は男性31.4%、女性37.4%と女性の方が多かった。またドロップアウト予備軍のうち、パートナーがいると答えた人の中で、パートナーの勤務形態は常勤(共働き)が36.7%と、非常勤23.7%及び専業主婦(夫)29.2%よりも多かった。指導医からのハラスメントを受けたと感じることがあったと答えた人は47.7%で、なかったと答えた20.5%よりも多かった。外科修練に満足にとても満足/少し満足と回答した人では28.5%であったのに対し、すこし不満/とても不満と答えた人は58.0%と多かった。時間外労働については、月80時間以内の人が23.3%に対し、月80時間以上の人は37.7%と多かった。平均当直回数ではドロップアウト予備軍は月平均7回の当直を

しており全体の月平均5回より多かった。修練プログラムを辞めようと考えた理由の回答（複数回答あり）ではQoL、ライフワークバランスが悪かった（122人）、人間関係が悪かった（115人）、キャリアに不安を覚えた（75人）と答えたものが順に多かった。

【結語】 3割を超える外科修練医がドロップアウトを考えたことがあった。女性修練医、共働き、指導医からハラスメントを受けたと感じること、修練プログラムへの不満、時間外労働時間が長い、当直回数が多い、というのが外科修練医におけるドロップアウトのリスクである可能性が示された。